

関東学院大学図書館貴重資料リスト

	タイトル	編著者	版	出版年	説明
1	神学文庫				神学図書室のキリスト教関係書。
2	イギリス古典経済学・哲学文庫				本学創立30周年を記念して購入。17～19世紀にかけてイギリスで出版された道徳哲学、理神論、修辞学、文芸批評、歴史学、経済学、経済時論、社会思想、政治論などの初版本から成る。318点、432冊。
3	国富論	アダム・スミス	初版	1776	市場経済の模範として広く読み継がれ国内外を問わず経済学の最高古典と評価されている。貴重な2巻本の初版は日本では若干の大学しか所蔵していない。
4	経済学および課税の原理	デビッド・リカードウ	初版	1817	『国富論』と並ぶ経済学の古典。随所に若くして事業家として大成したリカードウの鋭い洞察が見られる。マルクスにも大きな影響を与えた。
5	人口論	T.R.マルサス	初版	1798	
6	経済学原理	T.R.マルサス	初版	1820	
7	経済学原理	J.ステュアート	初版	1767	
8	貧困の状態	F.M.イーデン	初版	1797	
9	人間知性論	J.ロック	初版	1690	
10	道徳原理の研究	D.ヒューム	初版	1751	
11	志無也久世無志与(しんやくぜんしょ)	ネイサン・ブラウン		1879	日本初の新約聖書の全訳。関東学院の源流となる横浜バプテスト神学校設立に尽力した宣教師ネイサン・ブラウンによって翻訳・出版された。英語訳聖書からではなくギリシャ語原典から忠実に訳され、平仮名の連続体の活字で表記され、大衆にわかりやすいよう語り言葉が用いられている。聖書と訳史、また印刷史においても重要な世界でも数少ない稀覯書。
12	宇太登不止(うたとふし)	ネイサン・ブラウン編集		1876	バプテスト派初期讃美歌集。西洋音楽にもとづく略譜を用いて、ヘボン式ローマ字とは異なる独創によるローマ字が記入されている。日本の賛美歌和訳の歴史の上でも、西洋音楽導入の歴史の上でも貴重な資料。
13	ルター訳旧新約聖書			1730	ルターは1522年に新約聖書、1534年に旧約聖書を訳出し刊行した。ルターのドイツ語訳はやがてドイツの標準語になり、またルターの聖書によって宗教改革が著しく進展した。本学所蔵の聖書は1730年に出版されたものでアメリカ・バプテスト外国宣教協会のN.ブラネン博士が入手・寄贈したものである。この聖書は、本学とアメリカ・バプテストの結びつきと本学が聖書重視の伝統を背景に持つことを想起させる。

関東学院大学図書館貴重資料リスト

	タイトル	編著者	版	出版年	説明
14	福音紙芝居	今井よね		1932～	キリスト教を子どもに伝道するために作られた紙芝居。戦前から戦後にかけて発行された24作品を所蔵。イエスや聖書に出てくる人物が描かれている。
15	英和对訳袖珍辞書 (えいわたいやくしゅうちんじしょ)		改正増補版第2刷	1866	日本初の本格的英和辞書。初版は1862(文久2)年刊行。本学では改正増補版の第2刷1866(慶応3年)を所蔵。「袖珍」とはポケット型のものという意味。Beltは「携帯式帯ノ類」、potは「壺徳利」と訳され、英語は横書き、訳語は縦書き。
16	エジプト誌				ナポレオンの命により約200年前に出版されたエジプト遠征の調査記録で考古学の礎となった歴史的に重要な書物。持つことさえ困難な大型本に収められた手彩色による図版は当時のフランスの学問水準と技術力を伝え、見る者を圧倒する。23巻のうち、本学では8冊を所蔵。
17	星の王子さまコレクション				世界中で愛される『星の王子さま』は聖書に次ぐベストセラーとも言われ、各国で翻訳されている。本学では各国の翻訳本の他、世界で5冊のみ現存が確認されているReynal&Hitchcock社ペーパーバック版初版初刷りを所蔵している。
18	和英語林集成	ヘボン編訳	再版 三版 四版	1872 1886 1888	日本初の和英辞書。再版から第2部として英和の部が加わり、三版からいわゆるヘボン式ローマ字が採用された。
19	ちりめん本英訳「日本昔話」			1914	和紙を加工してしわをつくり、縮緬布のような手触りをもたせ、木版多色刷りした絵本。文章は欧文。桃太郎など日本の昔話を題材にしている。日本文化を欧米に紹介する目的で作られた。
20	横須賀製鉄所煉瓦				横須賀製鉄所は、1865(慶応元)年9月幕府によって開設、のち明治政府が引き継ぎ1871(明治4)年、横須賀造船所に改名され、軍艦や鉄製品の製造で日本の近代化に大きな役割を果たした。世界遺産富岡製糸場敷地内で発見された「ヨコスカ造船所」の文字が刻印された煉瓦は製糸場建設の際、見本として横須賀から取り寄せた可能性があると推測されている。本学が所蔵する煉瓦は製糸場のものよりも古い年代に製造されたもので、2つの施設の深い結びつきを裏付ける日本近代化の貴重な歴史資料である。
21	釣狐狂言面				人間国宝 茂山千作氏(先代 1896-1986)作。前シテの白蔵主、後シテの狐と揃い、包まれていた布は元禄時代の能衣装と伝えられる。箱の蓋裏には、茂山氏の箱書きが見られる。